

## 2023 年度 国際開発入門コース

### コース内容詳細

---

#### (0) オリエンテーション\* (全コース参加の方のみ対象)

11月11日(土) 11:00~12:30 ファシリテーター：FASiD

内容：本コースの概要説明と参加者の自己紹介後、参加者間で地球規模課題への問題意識や国際開発協力分野における関心分野・活動等を共有します。

#### (1) 国際開発協力の歴史、日本政府・主要ドナーの開発協力と国際相互依存関係

11月11日(土) 13:30~15:30 講師：大野 泉 氏 (政策研究大学院大学/GRIPS 教授)

内容：日本をはじめとする世界の主要援助国は、国際的な援助枠組みや各国の援助理念に基づき多様な援助戦略・手法を打ち出しています。最近の国際開発潮流を交えながら、日本の援助の特徴や国際開発協力においてどのような役割を果たしているかを解説し、日本が今後取り組む方向についても意見交換します。また、本年度改訂された開発協力大綱についても説明します。

#### (2) 日本の生活改善活動から途上国の農村での活動方法を考える

11月11日(土) 16:30~18:30 講師：清水 千鶴 氏 (農村生活コーディネーター)

内容：戦後日本の農村で実践された生活改善運動は、農村の生活向上に大きな成果を上げました。日本の生活改善事業の経験を途上国支援にも活用するために、その成果を基にして、開発協力の現場での活用に向けて各種教材が作成され、本邦研修や専門家、ボランティアの活動に活用されてきました。本講義では、日本の生活改善運動の特徴、有用性を学び、途上国での協力活動にどう活かすことができるか考えます。

#### (3) UN システム及び国連機関による平和政策

11月17日(金) 19:00~21:00 講師：西野 桂子 氏 (関西学院大学 総合政策学部・大学院総合政策研究科 教授)

内容：国際連合及びその関連機関、専門機関などからなる UN システムの基本構造を解説します。また、国連の主要な目的の一つである「国際平和と安全の維持」のための主要な政策手段について解説すると共に、昨今、注目される「人間の安全保障」や「保護する責任」といった政策概念についても紹介します。

**(4)人道支援における援助の質とアカウントビリティ向上～人道支援の必須基準（CHS）～**  
12月1日（金）19:00～21:00 講師：五十嵐 豪 氏（特定非営利活動法人 CWS Japan プログラムマネージャー）

内容：紛争の被害者や自然災害の被災者の生命、尊厳、安全を確保するために行う人道支援では、支援の質の向上と説明責任を果たすことを重視しています。それらを実現するために制定された人道支援の必須基準（Core Humanitarian Standard: CHS）について、制定にいたる経緯や具体的な事例を通じて学びます。

**(5)JICA による国際協力、民間連携の取り組み**

12月8日（金）19:00～21:00 講師：石田 美帆 氏（国際協力機構/JICA 民間連携事業部 計画・連携企画課 主任調査役）

内容：「持続可能な開発目標（SDGs）」を達成するには、様々な技術、アイデア、知の結集が必要となります。そのため、民間企業の優れた製品、技術、ノウハウを活用することで、課題を解決するような取り組みが強く求められています。このような潮流の中で JICA がこれまでに培った経験やネットワークを生かして取り組む民間連携事業について、JICA の概要と役割の説明と共にご紹介します。

**(6)コミュニティと共創する未来のサニテーション**

12月15日（金）19:00～21:00 講師：山内 太郎 氏（北海道大学大学院保健科学研究院 教授、北海道大学環境健康科学研究教育センター センター長）

内容：サニテーションとは、一般的には「人間のし尿を安全に処理する技術、設備」を意味します。2015年には、世界人口の約1/3（23億人）が基本的なトイレを持っておらず、さらに7-9億人が道路や茂み、川などで用を足しているといった状況でした。現在においても状況はほとんど改善されていません。本講義では、アフリカ、東南アジアの都市スラム、日本の山村において、子ども、地域社会、研究者と一緒にサニテーションのしくみを創っていく取り組み事例を通じて、サニテーションの重要性について学びます。